

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報 第23号

Contents:

UCL Library の古さと新しさ

シンガポールの図書館と私

特集データベース データベース活用術

新規データベース紹介/目的別データベース案内

特集データベース 『四庫全書』電子版 利用案内

特集データベース CiNii の紹介

Information

編集後記

UCL Library の古さと新しさ

三間 英樹

Gower Street の正門をくぐると、印象的なシルエットを持つ Wilkins Building が目に入ってくる。ドラマのロケなどにも良く使われる、University College London (UCL) のシンボリックな建物であるが、この中は実はほとんどが図書館関係の部屋で占められている。大学の最も重要な建物に置かれているあたり、学問に最も重要なのは図書館であることを意思表示しているかのようで、印象的だ。同じロンドン大学の School of Oriental and African Studies (SOAS) も同様に、メインビルディングの中央部が

全階図書館となっており、その周りを教室が囲むような構造になっていた（そういえばかつての British Library も British Museum の中央部を占めていたのだ）。

日本から持ち込む荷物を少なくするため、研究書は必要最小限しか持ってこなかったため、図書館はしょっちゅう利用した。言語学関係は、UCL Library の中でも一番中央の、天井が高く趣のある部屋があてがわれていて、良い雰囲気の中勉強することができた。古くて背の高い本棚が両脇に並び、高いところ

にある本を取るにははしごを使う。真ん中にやはり古めかしい読書用の机が並んでいる。対面式だが真ん中に仕切りがあり、ライトもついている。部屋中に古い本特有の匂いがする。

UCL も SOAS も図書館はいつも人で一杯で、座る場所を見つけるのに苦労しなければいけないこともあったが、場所取りをしているような学生はいなかった。それがフェアネスというものだ。別のところにも書いたが、学生は熱心に勉強をする。図書館でも一人で黙々と何かを調べたり、書いたりしている。雑談はない。話したければ外に出るのだ。

利用者が多いのにコピー機は少ししかなく、テスト前ともなると長い列が出来た。コピー機は日本のものに比べると性能が悪く、しかもしょっちゅう壊れていた。

何もかもが古めかしく見える UCL Library だったが、感心したのが IT 化の浸透具合であった。例えば自宅からインターネットで自分の ID とパスワード

を入力すると、自分の貸出状況が常にチェックできるだけでなく、延長の手続きや、貸出中の本のリクエストまでできるのだ。

本の種類にもよるが、普通の本は何度でも延長可能である。つまり、誰かからリクエストさえ入らなければ、永遠に借り続けることができる。幸か不幸かさほど研究人口が多くない分野を研究しているので、ほとんどの本を一年間ずっと借り続けることができた（1冊だけリクエストが入って返却したが、それが誰だったか想像はつく。院生の N だ。僕が研究発表で言及した本に興味を持ったに違いない）。

スタッフとしての ID が失効した今ではもう、こういう風に本を借りることができない。それを思うと一抹の寂しさがあるが、研究上のつながりもあるので、UCL Library には今後もしばしば訪れることになるのだろう。

（ざんま ひでき 本学助教授）



シンガポールの図書館と私

シンガポールに10ヶ月留学した。普通、留学先あるいはワーキングホリデー先の国といえば、カナダやアメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド等々の華やかな欧米諸国が思い浮かぶ。アジアが好き。多文化。「アジア色」を持ちつつ他の欧米諸国やアジア諸国にはないと想像される魅力を見出してシンガポールを選んだ。

シンガポールにはオリジナリティがない。あるいは多様な文化・社会が共存していることにそのオリジナリティがあるとも言える。高層ビルが立ち並ぶオフィス街から500m圏内にはチャイナタウン、リトルインディア、アラブストリートが点在していて、まさに琵琶湖ほどの大きさしかないこの国にマレー・中国・インド・欧米などの文化が凝集されているという感じだ。特にお薦めの場所は夕方のアラブストリート。夕焼けをバックに立つイスラム教寺院(モスク)とそこから流れる神聖かつ歌のようなコーランに感動して思わず立ち止まってしまったことがあった。

留学中の勉強場所として、シンガポール国立大学図書館とジュロン公立図書館の2つを利用していた。両者には、きれいで(伝統がない!?) やたら広い(通路や休憩などの本以外のスペースが多い)、返却・貸出の機械化、延滞による罰則、

などの共通点があったが、それぞれの図書館の特徴を挙げるとともにシンガポールの図書館について考えてみたい。

先の図書館報で村田先生、田中先生がおっしゃっていたのと同じように、シンガポールでも大学図書館は日本と若干異なり、勤勉な学生が多いように感じた。授業が難しいとか、課題が多いなどの理由の他にも元々意欲的な学生が多いからではないかと感じた。また、1つしかない国立大学の中央図書館だからであろうか、施設がとても充実していて、自習スペース、シンガポール・マレーシアに特化した細かい経済統計などを集めたコーナー、ディスカッションスペース、パソコンとプリンタのスペース、コピー室、さらには飲食会話スペースや携帯電話会話スペース(大抵寝転んだり座って勉強したりしている学生に占拠されていた)までもあった。中文図書館とその中の日本語書籍コーナー(朝日新聞などの日本の新聞や『負け犬の遠吠え』もあった)や、視聴覚コーナーもよく利用していた。しかし、視聴覚コーナーは外大ほど融通が利かず、休暇以外は授業の参考のためのみであり、普段楽しみのために見ることはできなかった。自習するスペースが本当に多かった反面、頻繁に改装工事を行うため、勉強に集中できない場所も多かった。国家の政策

上インフラ工事による失業者減少の意図がある。振り返ると、大学のどこか数箇所ですら常にかの改装工事をしていて、全く工事のない学校という状態が存在しなかったのが印象的だった。

公立図書館では数回本を借りた程度だったが、行く度にソファや併設のカフェでのんびり本を読んだりして、清潔で落ち着いた雰囲気が好きだった。地下の幼児コーナーや最上階すべてを使った児童自習・休憩コーナーも斬新なデザインが施されていて画期的だった。この図書館のカードを作ったのだが、外国籍の利用者は地元民の倍額の 20 シンガポールドル(約 1,400 円)を徴収された。苦学生身分でこの出費は打撃であった

ため、「そういえば大学図書館の所蔵も充実しているのにお金出してまでここで本を借りることはないな」と思い直してカウンターにカードが不要だからつい先ほどのお金を返して欲しいと 2 回ほど言いに行ったがだめであった。

大学図書館でも 1 度延滞の罰金を払ったこともあって、私の中でのシンガポールの図書館のイメージは充実した施設と何かしらの料金の徴収となってしまっている。だが、これほど楽しみにも勉強にも使える、充実した図書館に私は出会ったことはないのは事実だ。

(国際関係学科 3 年)



データベース活用術 新聞記事も論文も百科事典もデータベースで

このたび図書館では新しく数タイトルのデータベースを導入し、データベース環境の改善を図りました。ここでは、新規導入のデータベースを中心に、現在、本学図書館で利用できる主なデータベースを紹介し、(特に断りのないものはオンラインデータベース)。

データベースは、図書館閲覧室内に設置の専用パソコンまたは学内 LAN 接続のパソコン(図書館ロビー・学生用コンピュータ室・学生会館など、教員は個人研究室など)から利用することができます。ただし、データベースのなかには、同時利用ユーザ数に限りがあるものがあります。利用時間には十分ご配慮ください。また、ログアウトが必要な場合は必ずログアウトをして終了してください。各データベースの利用条件については、8ページの「主要データベース一覧」をご覧ください。

今回の導入により、学内 LAN で利用できるデータベースが増えました。これらのデータベースは図書館に行かなくても利用することができます。学内 LAN で利用する場合は、図書館のホームページにアクセスし、メニューの「オンラインデータベース」をクリックしてください。データベースの一覧が表示されます。

データベースを利用することで効率的な情報収集が可能になります。ぜひご活用ください。

新規導入データベース紹介

JapanKnowledge

JapanKnowledge は、百科事典「日本大百科全書(ニッポニカ)」をはじめ、国語辞典「大辞泉」、時事用語事典「現代用語の基礎知識」「imidas」、人名辞典「日本人名大辞典」、さらには英和、和英、英英辞典など各種事典・辞典を収録した総合データベースです。また、国内6大学の学位論文の検索ができるデータベースも収録されています。記事・コラム、地図、URL 集などを加えると総コンテンツ数は30を超えます。

事典・辞典は横断検索が可能です。さらに、検索結果には関連項目・サイトへのリンク、参考文献が掲載されているものもあり、理解を深めることができます。

EBSCOhost Academic Search Elite

EBSCOhost Academic Search Elite は、外国雑誌の全文データベースで、人文社会科学から自然科学まで幅広い分野の雑誌論文・記事の情報を検索できます。収録雑誌は約3,500誌、うち約2,000誌(うち査読誌1,500誌)は全文の閲覧が可能です。

EBSCOhost からは他に ERIC(次項参照)、MLA International Bibliography が提供されており、横断検索が可能です。また、検索結果(書誌情報)には WebcatPlus へのリンクがはられており、全国の大学図書館における掲載誌の所蔵状況を確認することができます。

ERIC

ERIC は、米国の教育資源情報センター (Educational Resources Information Center 略称 ERIC) が提供するデータベースで、教育関係の文献情報が検索できます。

本学図書館では EBSCOhost から利用できます。Academic Search Elite に論文・記事の全文が収録されている場合は、書誌情報から全文にリンクします。

Encyclopaedia Britannica

ブリタニカ大百科事典の DVD-ROM 版です (英語)。書籍版から更新が重ねられており、映像・画像・音声や地図、参考文献も豊富です。さらに、英英辞典や類語辞典も収められています。

Oxford Dictionary of National Biography Online

オックスフォード英国人名辞典のオンライン版です (英語)。紀元前 4 世紀から現代まで英国の歴史・文化に深い関わりのある著名人 (故人) の情報を検索できます。収録人数約 5 万人、写真や肖像画は約 1 万点にのびます。関連サイトへのリンクや参考文献も充実しています。

Oxford English Dictionary Online

Oxford English Dictionary のオンライン版です (英語)。1989 年刊行の第 2 版全 20 巻と補遺 3 巻のデータが収録されています。さらに、2010 年刊行予定の第 3 版に収録が予定されている新語も追加されています。

目的別データベース案内

論文・記事を探す

国内の雑誌・紀要に掲載された論文・記事の情報は、MAGAZINEPLUS や CiNii (詳細は 10 ページ) で検索できます。いずれも幅広い分野の論文・記事の情報が収録されたデータベースです。後者には、本文や抄録、引用情報が見られるものがあります (一部有料)。また、検索結果 (書誌情報) のなかには WebcatPlus へリンクがはられているものがあり、本文が収録されていない場合は、WebcatPlus で掲載誌の所蔵図書館を確認することができます。

なお、同種のデータベースとして、NDL-OPAC (雑誌記事索引) があります (<http://opac.ndl.go.jp/>)。国立国会図書館がインターネット上に公開しているデータベースで、無料で利用できます。

海外の論文情報は EBSCOhost が提供するデータベース Academic Search Elite, ERIC, MLA International Bibliography で調べることができます。Academic Search Elite には幅広い分野の論文の全文および抄録が収録されています。また、ERIC は教育学関係の、MLA International Bibliography は言語学・文学・民俗学の文献情報が検索できます。

さらに、ingentaconnect でも論文情報の検索ができます。学内で利用すると、一部の論文に限り全文を読むことができます。また、ingentaconnect はインターネット上にも公開されており (<http://www.ingentaconnect.com/>)、書誌情報および抄録は無料で閲覧できます。

新聞記事を探す

新聞記事を検索するには、聞蔵 DNA for Libraries と朝日新聞戦後見出しデータベース(CD-ROM)を利用します。いずれも朝日新聞のデータベースで、前者は1984年8月以降の記事全文、後者は1945年から1995年の見出しが収録されています。記事本文が必要な場合は、縮刷版をご覧ください。縮刷版は1945年から完備しています。

事柄を調べる

調べものの基本となる百科事典のデータベースに JapanKnowledge と Encyclopaedia Britannica (DVD-ROM) があります。前者は、百科事典「日本大百科全書」をはじめ各種事典・辞典等が収録された総合データベースです。後者は、ブリタニカ大百科事典英語版のデータベースです。いずれのデータベースも書籍版から更新が重ねられており、最新の情報を調べることができます。また、理解を深めるための関連項目・サイトへのリンクや参考文献も豊富です。

言葉の意味を調べる

言葉の意味を調べるための辞典のデータベースもあります。JapanKnowledge には、国語、英和、和英、英英辞典が収録されています。また、Oxford English Dictionary のオンライン版の Oxford English Dictionary Online も利用することができます。

時事用語について調べる

代表的な時事用語事典である「現代用語の基礎知識」「imidas」「知恵蔵」は、いずれもデータベース化されており、オンラインで検索することができます。「現代用語の基礎知識」と「imidas」は JapanKnowledge に、「知恵蔵」は聞蔵 DNA for Libraries に収録されています。

人物について調べる

人物を調べるには JapanKnowledge 収録の「日本人名大辞典」および「JK Who's Who」を利用します。前者は6万5千人を超える日本人および日本に関わりの深い外国人の情報が検索できます。後者には、国内外問わず人名辞典には収録されていない現在活躍中の人物の情報を調べることができます。なお、同データベース内の「日本大百科全書」にも人物情報が含まれていません。

また、海外の人物を調べるには、岩波=ケンブリッジ世界人名辞典(CD-ROM)を使います。収録人名数は約1万5千人、人物写真は2千点にのぼり、年代別・地域別・分野別検索など多彩な機能が備わっています。

英国の人物(故人)については、Oxford Dictionary of National Biography Online を利用します(6ページ参照)。



(飯島)

主要データベース一覧

言語	内容	タイトル	申込	利用端末			利用人数	ログアウト
				館内	学内	学外		
日本語	論文情報	MAGAZINEPLUS					1	
		CiNii 論文情報ナビゲータ						
	新聞記事	聞蔵 DNA for Libraries					1	
		朝日新聞戦後見出しデータベース					1	
	百科事典	JapanKnowledge(日本大百科全書)					4	
	国語辞典	JapanKnowledge(大辞泉)					4	
		広辞苑 第5版					1	
	時事用語 事典	JapanKnowledge(現代用語, imidas)					4	
		聞蔵 DNA for Libraries(知恵蔵)					1	
	英和辞典	JapanKnowledge(ランダムハウス他)					4	
和英辞典	JapanKnowledge(プログレッシブ)					4		
人名辞典	JapanKnowledge(日本人名大辞典)					4		
	世界人名辞典					1		
英語	論文情報	EBSCOhost Academic Search Elite						
		ERIC						
		MLA International Bibliography					1	
		Ingentaconnect						
	百科事典	Encyclopaedia Britannica					1	
	英英辞典	Oxford English Dictionary Online						
人名辞典	Oxford Dictionary of National Biography					1		
中	漢籍	四庫全書					1	

表の見方

申込	カウンターへの申込が必要	申込不要
利用 館内	閲覧室内の専用端末で利用可	専用端末では利用不可
学内	学内 LAN 接続 PC で利用可	学内 LAN では利用不可
端末 学外	学外(インターネット)で利用可	学外では利用不可
利用人数	数字 同時に利用可能なユーザ数	ユーザ数は無制限
ログアウト	終了時にログアウトが必要	ログアウト不要

* 一部ログイン/ログアウトが必要なサービスがあります。詳しくは 10 ページをご覧ください。

『四庫全書』電子版 利用案内

『四庫全書』電子版とは？

『四庫全書』電子版は、『四庫全書』の全内容をデジタルデータ化したものです。全文検索や書名・著者名等による検索が可能です。

本学図書館では、閲覧室内のコピー室前に、『四庫全書』電子版が使える端末を1台設置しています。

『四庫全書』とは？

『四庫全書』は、簡単に言えば、網羅的な「漢籍の叢書」です。

清代の乾隆年間に、当時現存する全ての資料を集めるべく、約20年(1773年~1793年)かけて収集、編纂されました。全3,503種(タイトル)・総計400万ページ以上におよぶ中国最大の叢書です。

なお、外大には図書の『四庫全書』もあります(原本の複製)。書名と著者名の索引がついていますので、こちらもご利用ください。索引の請求記号は「叢部-1-53-1501」です。

『四庫全書』電子版の基本的な使い方

[A 起動]

まず下記1~3の手順で検索画面を開きます。

1. ログイン

「ユーザー名」と書かれたウィンドウに「kobe」と入力し、ログインします。

2. 初期画面

画面右下の「内容検索」をクリックし、検索画面を開きます。

この画面では「内容検索」と「凡例」と「退出」(後述の[D終了]を参照)以外のアイコンは使用しません。

3. 検索画面 = “主介面”

画面左上の「本に虫眼鏡」のアイコンから、任意の検索画面を起動します。(次項参照)

[B 検索]

検索機能には次の4種類があります。

a. 全文検索 ... 文中の語句を検索します。

検索結果では、検索キーは反転して表示されます。(下記の図1を参照)

b. 分類検索 ... 「四部分類」で検索します。

「経部・史部・子部・集部」の各分類名をクリックすると、その分類に該当するものの一覧が表示されます。

c. 書名検索 ... 書名で検索します。

d. 著者検索 ... 著者名で検索します。

[図1：全文検索の検索結果画面]

『論語』の冒頭「子曰く学びて時に之を..」



『四庫全書』電子版(c)上海人民出版社、迪志文化出版

[C HELP]

検索画面の右上にあるアイコン?をクリックすると、各画面の見方や使い方などの説明が表示されます。

本稿で触れていない機能については、こちらをご参照ください。

[D 終了]

各画面とも「退出」を選択することで、『四庫全書』電子版を終了させることができます。

検索画面では、画面右上の「馬」のアイコンから「退出」を選択することができます。

(柿本)

CiNii NII 論文情報ナビゲータ の紹介

CiNii とは？

2005 年 8 月より国立情報学研究所の CiNii を提供しています。CiNii とは国立情報学研究所(NII)が提供する、論文情報ナビゲータの名称です(読みはサイニイ)。

国内の学協会が発行する学術雑誌と、大学などが発行する研究紀要に掲載された論文記事を検索できます。主に検索対象となるデータベースは NII-ELS と、国立国会図書館作成の雑誌記事索引データベースです。本文の表示やプリントアウトが可能なタイトルも含まれています。

CiNii へアクセス

図書館ホームページのメニュー「オンラインデータベース」をクリックすると、外大図書館で利用可能なデータベースの一覧が表示されます。「CiNii」をみつけてクリックしてください。青地に黄色い文字のバナーが目印です。

CiNii には本文情報が有料のものがあります。利用できるデータベースとして Thomson Scientific 社の Citation Index シリーズが含まれていますが、こちらも一部有料です。これらの有料コンテンツを利用するにはサイトライセンス個人 ID の取得が必要になります。

サイトライセンス個人 ID とは？

CiNii には機関登録制度があり、大学単位で登録していると、所属する学生や教

員は大学の構成員として優遇されます。サイトライセンス個人 ID は機関登録している大学の構成員が無料で取得できる ID です。取得した ID でログインすると学外からでも機関登録の利用者だと認識されるようになり、無料で利用できるコンテンツの範囲も広がって便利です。本学は機関登録していますので、サイトライセンス個人 ID を取得できます。

サイトライセンス個人 ID の取得方法

学内 LAN につながっている端末(図書館ロビーや学生会館の端末、教員は個人研究室など)から CiNii にアクセスしてください。画面向かって左側に「新規登録」というボタンが出ています。クリックして登録画面へ進んでください。登録の際に注意していただきたいことは次の 2 点です。

登録は必ず、学内 LAN につながっている端末から行ってください。学外から登録すると個人登録とみなされ、登録料金が発生します。

有料コンテンツ利用料金の支払方法は、クレジットカード払いと請求書払いを選択できますが、請求書払いにする場合、支払い責任者はご自身に設定してください。機関名(図書館名や大学名)を登録なさっても、公費で利用料金をお支払いすることはできません。

(永井)

INFORMATION

視聴覚ライブラリーより

冬季休業中の開室について

冬季休業中の開室日・開室時間は、次のとおりとなります。

開室	12/13(火) - 27(火) 1/5(木)	9:30 - 16:30
	土、日曜日 および祝祭日	
閉室	12/28(水) - 1/4(水)	

冬季休業中の長期貸出

冬季休業に伴い長期貸出を行います。

実施期間： 2005/12/8(木) - 12/27(火)

返却期限： 2006/1/12(木)

貸出冊数：

1・2年生 科目等履修生 卒業生	7冊
3・4年生	10冊
院生 研究生	20冊

図書館より

冬季休業中の開館時間

冬季休業中の開館日程は次のとおりです。詳しくは、図書館ホームページ、図書館内掲示板の開館カレンダーをご覧ください。また、カウンターには配布のカレンダーを用意しています。

開館	12/13(火) - 21(水) (15を除く) 集中講義期間	9:00 - 19:30
	12/22(木) - 27(火) 1/5(木)	9:00 - 16:30
	12/15(木) 館内整理日	17:00 - 19:30
閉館	土、日曜日 および祝祭日	
	12/28(水) - 1/4(水)	

* 院生・研究生は12/16(金)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。

原稿募集

図書館報(本誌)に掲載する学生のエッセイを募集します。図書館の思い出や印象に残った本など、図書館や本にまつわるお話をお寄せください。興味のある方は図書館・飯島までご連絡ください。学生の皆さんの声を反映した図書館報作りを目指しています。皆さんの投稿をお待ちしています。



編集後記

現代日本のカタカナ語の氾濫には閉口させられますが、お隣の中国には漢字表記への頑ななまでの拘りがあるように思われます。外来語についても全て漢字を宛てなければならぬという宿命と闘うことが、中国文化をある意味で支えていると言えなくもありません。コンピュータを「電腦」と書くこと知って、漢字の持つイメージ喚起力に感心する人も、少なくないのではないのでしょうか。

その電腦、コンピュータが無ければ最早ほとんどの業務が成り立たないのは、図書館も例外ではありません。図書館におけるコンピュータ利用は、当初の裏方業務からシフトして、利用者サービスの中心的位置を占めてしまったと言って良いのかも知れません。

三間先生が書かれている IT 化は、最近

図書館界で流行の個人ポータル の例で、将来的には現実のサービスカウンターの利用は激減し、ネットワーク上のヴァーチャルカウンターとしての、図書館ポータルがそれにとって代わるだろうという予測もあります。

今回紹介しているデータベースや CiNii も、図書館のポータル化を意識して、そのコンテンツの重要な構成要素の一つとして導入したものです。機会を捉えて大いに利用していただきたいと思います。

さて、みずから『四庫全書』を欽定した大清帝国の乾隆帝が、現代の図書館でこの「電子版」を見たとしたら一体どのような感慨を抱かれるものか、是非聴いてみたいものです。

編集責任者：図書館事務長 牛原秀治

AD ALTIORA SEMPER No.23 = 神戸市外国語大学図書館報

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学図書館

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257

E-MAIL: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

URL: <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2005年11月30日発行

発行責任者：図書館長 佐藤晴彦